



東海支部報

日本山岳会東海支部

No. 152 Jan. 1. 2018

発行 公益社団法人
日本山岳会東海支部

〒460-0014 名古屋市中区富士見町8-8 OMCビル

電話：052-332-8363 FAX：052-322-7924

郵便口座 00800-5-13749 「日本山岳会東海支部」

銀行口座 三菱東京UFJ銀行 覚王山支店

普通1222073 「日本山岳会東海支部」

編集 星 一男

印刷 (株) 浅井隆文社



カナディアンロッキー・マウントキッド西壁 上部岩壁へ向かう山田 写真・菊池ボブ徳 本文P5参照

目次

| | | | | | |
|--|------|---|------------------------|------|----|
| ○年頭のご挨拶 | 高橋玲司 | 2 | ○リレーエッセイ⑧ | 安藤忠夫 | 12 |
| ○第9回猿投の森の音楽祭2017 | 毛利邦男 | 3 | ○東海支部の蔵書からの一冊⑭ | 石田文男 | 14 |
| ○ゴザフェス2017 | 澤井丈典 | 4 | ○同好会コーナー スケッチ/塩の道 | | 16 |
| ○Alpine express in the Canadian Rockies2017 | 山田利行 | 5 | ○支部友コーナー | 金谷正起 | 17 |
| ○秋のブラインド登山 | 前田隆久 | 7 | ○委員会報告 登山教室/亀の会 東学連 | | 18 |
| ○森の勉強会 | 中村鎮雄 | 8 | ○会務報告 | 毛利邦男 | 20 |
| ○東海岳人列伝(8) | 西山秀夫 | 9 | ○ルーム日誌・会員異動 | 毛利邦男 | 24 |
| | | | ○INFORMATION | | 25 |
| | | | ○編集後記 | 星 一男 | |

年 頭 の ご 挨拶

支 部 長 高橋 玲司

新年あけましておめでとうございます。
日本山岳会東海支部も今春設立57年を迎え、支部として掲げた『トリプルワン』（安全第一・一体感を持つ・NO. 1を目指す）をスローガンに本年も取り組んでいきます。

昨年の自身の山登りを振り返りますと、岐阜の地の利を生かし、時間を見つけては山に登り、100日登山を達成しました。本年は100日と5.11クライマーをめざし日本一元氣な支部長を目指します。

さて、昨年の一年間を振り返りますと、東海支部におきましては何と言っても登山学校の開校が上げられます。全体で87名の参加があり支部員、支部友からの参加もありましたが、何より夏山フェスタなどから100名以上の新しい仲間の参加をいただいた事は大きな収穫でありましょう。学校の目的は、自分たちで行ける能力を作るとともにツアーでもないガイドでもない、仲間を作りコミュニティを作り、山岳会の楽しさを感じていただく事であり、将来の山岳会員へなっていただける方々へのアプローチとしては大変素晴らしい取り組みだと感じます。一方で講師の負担や事故への対応、連絡体制の整備など改めて支部として取り組まなければいけない課題も感じられました。安全第一はすべての項目に優先する事を肝に銘じ活動しなければなりません。技術向上委員会を中心に安全に向けた方策は考えられるかと思えます。

各委員会においても活動も盛んに行われており、65歳以上を対象とした亀の会の活動も年を追うごとに活発であり、元気で長生きするシニアライフを満喫する場として提供いただいております。ボランティア委員会の活動も成熟しており、若手と連携した委員会運営は他委員会の模範となるところであります。高齢化が進む猿投の森づくり委員会などへの応用も考えていければと感じております。9回を迎えた森の音楽祭も、雨天ではありましたが大盛況に終わり、一般市民の多くの参加がありました。

東海支部の委員会活動も活発に行われ、今

年度は試験的に委員会のグループ分けをさせていただきました。各グループでの共有した一体感の意識が生まれないか模索しております。特に若手の青年部・東海ユース・東海学生山岳連盟などが双方の垣根を越え活性化が出来る取り組みを模索中であり、今年の期待する取り組みであります。



東海支部が抱える364名の支部の組織の大きさ故のフットワークの課題は、東海支部の各委員会の委員長さんよりの伝達でカバーしています。各委員会の連携と全支部員の委員会加入が支部活動を楽しくしていきます。各委員会への加入をしていただくようお願いいたします。

最後になりましたが、近年社会通念としてコンプライアンスの言葉をメディアを通して知ることが多くなりました。日本語では法令遵守と訳されています。法令遵守意識の浸透は常識となりました。岐阜県では登山届が条例になりました。長野県もきまかく登山届の提出のルートを定めています。更に自分のレベルに合った山を選ぶように情報提供しています。このように安全登山に最大限配慮する取り組みが、山岳会の果たす社会通念上の責務として定着化されてきております。例えば計画書の作成、提出は当たり前となり、安全登山を遂行し指導して行く事も山岳会の大きな責務となっていると感じます。どうか皆さん、今年も安全には最大限配慮し、活躍される事と、東海支部が益々発展する事を祈念申し上げまして、年頭のごあいさつと代えさせていただきます。

第9回猿投の森の音楽祭2017

森の音楽祭実行委員会 毛利邦男

去る10月28日(土)に第9回森の音楽祭2017を開催しました。今年は台風の影響もあり、森の中の林道が相当荒れた状態になっていたため、土嚢を使っての道路整備に4日間を割くこととなった。しかし、万全の事前準備作業にも拘わらず当日はあいにくの雨、やむなく雨天会場として用意したパーティセと5階のアリーナでの演奏会と合唱のみの開催となりました。

音楽祭は高橋支部長、小川猿投の森づくりの会代表の挨拶にはじまり、つづいて来賓の瀬戸市長の代理として参列していただいた稲垣宏和交流活力部主管と東大演習林教授で猿投の森づくりの会の顧問をお願いしている蔵治先生より挨拶を頂いた。

そして、いよいよアルプホルン名古屋の皆さんによるアルプホルンの演奏が始まった。つづいて東海学園交響楽団によるドボルザーク作曲 交響曲第8番ト長調作品88番のすばらしい演奏となった。演奏後の花束の贈呈が終わると、想念寺住職の渡辺観永さんの歌唱指導の下参加者全員で「雪山讃歌」を歌い上げ終了した。

第2部として用意した森の観察会と猿投山をめざしたハイキングは雨のため中止となりましたが、音楽祭に参加して頂いた方には、素晴らしい演奏と合唱を存分に楽しんで頂けたものと信じています。観察会のコース整備、オーケストラ会場並びに道路整備のため4回にわたって行った事前作業と前日の準備作業に参加して頂いた、猿投の森づくりの会の皆様および東海支部の支援スタッフの皆様のご尽力・協力に対し、この場を借りて改めてお

礼を申し上げたい。来年は、10回目の節目となるので、新しい企画を考えたい。



東海学園交響楽団による演奏



瀬戸市長代理の
稲垣宏和氏の挨拶



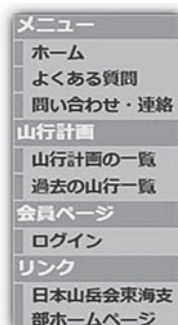
猿投の森づくりの会代表
小川務 氏の挨拶



参加者全員で「雪山讃歌」を合唱

山行委員会より会員の皆様へ お知らせ

- ①山行委員会では新たにホームページに掲載された山行案内をメール会員の方々に連絡しています。案内ご希望の方はメールアドレスをお知らせください。
- ②パスワードを忘れて山行申し込みが出来ない方が見えましたら、山行委員会ホームページの「問い合わせ・連絡」欄より問い合わせてください。パスワードをお知らせします。



クリック

ゴザフェス (GOZAISHO FESTIVAL) 2017

2017 年度東海学生山岳連盟委員長 澤井文典

今年も皆様からの温かいご支援をいただき、日本山岳会東海支部の東海学生山岳連盟主催で9月23・24日に御在所山藤内小屋をベースにゴザフェス(御在所フェスティバル)を開催させていただきました。

東海学生山岳連盟は2009年11月に再発足し、登山を行っている東海地区の大学のクラブで運営されている団体です。例年連盟主催で開催させていただいているゴザフェスは全国の山好きな大学生が日本の地理的中心の東海圏にある御在所山に一同に会し、親睦を深めるというイベントです。

今年で8回目となり、東海地区に限らず全国の大学から参加者が集まり、山登りやクライミング、夜の盛大な懇親会を通して、楽しく交流を深めました。今年度は1日目のクライミング講習会と2日目の前尾根ルートでの講師として日本山岳ガイド協会より国際山岳ガイドの山本一夫さんをお招きいたしました。山本ガイドの指導で例年になく充実した2日間が過ごせました。

初日は集合の後、ゴザフェスに例年多大なご協力をいただいている藤内小屋へ皆で楽しく歩荷をしながら向かいました。その後、一の壁周辺にてクライミング経験のない人に向けて岩登りの講習会を行います。例年は学生同士で教えあう形ですが、今年は山本一夫さんに岩登りの基礎について講習をしていただきました。山のプロの方に直接教えていただける機会は、大変有意義でたくさんの方を皆で吸収し共有することが出来ました。

夕方からは盛大な懇親会です。皆で美味しい夕食を囲み、各大学の紹介を兼ねた出し物をして、語り合い、歌い夜は深けました。

2日目はレベルに合わせて国見尾根・中道・本谷・前尾根の4つのルートに分かれて山頂を目指します。レベルは違っても同じ時に同じ山頂を目指す御在所という山は素晴らしい山だと毎年感じます。そして、皆が山頂に集い、集合写真を撮り一緒に下山して解散になりました。

ゴザフェスでともに夜を過ごし、ともに登ることでお互いに刺激を受けて深い絆が生ま



頂上での集合写真

れ、ゴザフェスが終わった後も交流が続きます。学生のうちはもちろん、社会人になってからも続くような関係がゴザフェスから生まれることもあります。このような素敵なイベントを今後も大切にして続けていきたいと思っています。そして毎年開催させていただいている藤内小屋の方々、また毎年暖かいご支援をいただいている日本山岳会東海支部の方々、高橋支部長に改めてお礼を申し上げます。ありがとうございました。今後とも東海学生山岳連盟をよろしくお願いたします。



山本ガイドの講習の様子

Alpine express in the Canadian Rockies 2017

支部員 山田利行

生活とクライミングの両立「カナダでの3年間」

早いものでカナダに移住して3年が経ちました。去年まで本当に安定しなかった生活も少しずつ落ち着きを見せて来ました。英語もろくに喋れないにも関わらず、知り合いも家も何も決めずにカナダに飛び込みました。この3年間の内に引っ越しは5回、車の乗り換え4台、ガイドになるために受けた試験8回、転職も9回はしました。生活だけで大忙しではありましたが、いつも傍でサポートし、ビザの面において道を切り開き続けてくれている頼もしいパートナーの支えもあり、自分のクライミングは、できる限り続けています。その内のいくつかの登攀では初登攀をすることもできました。2016年に東海支部からご支援を頂いたワディントン山群でのクライミングもその中の一つです。現地、日本の多くの方々に助けられ、異国の地で好きなことをしながら生きてこれたのだと思います。カナダという多民族国家の中で、日本人というアイデンティティは通用しません。むしろアジア人というカテゴリーをされます。その中で自分を意味付ける唯一のものはTOSHIという一人の人間であるという事実だけです。その中で、自分の唯一の拠り所は、クライミングであるということは間違いありません。クライミングは世界の共通言語なのでしょう。今では、カナディアンロッキーのエリアでクライミングコミュニティにも少しは名前を知られるようになりまし、友人もいます。また、昨年の秋にアプレントイスロックガイド試験に合格したことによって、ガイド社会にもこれから入っていくことになると思います。そうやって少しずつこの国でのステータスを構築し、自分の居場所を作っている最中です。山も生活もうまく両立させ、プライベートでも仕事でも山を舞台として今後もチャレンジしていきたいと思っています。

初心を忘れるべからず「アルパインクライミングに必要なもの」

私の身の上話はこれくらいにしてプライベートでの山の近況を書きたいと思います。昨



マウントキッド頂上にて 左から菊池・山田

年の春にトライしたマウントボール東壁の情けない敗退を経験し、アルパインクライミングにおいて自分に足りないものを考えていました。改めて自分のロッキーでのクライミングを振り返り、あることに気づきました。2015年春のアルパインエクスプレスでマウントテンプル北壁、ワイルドシングスの登攀以降、まともに大きな山、壁には登れていないという事実でした。300M程度の壁であれば初登攀も含め、登ることはできていたのですが、それ以上600M～1000M以上の壁は自分の実力不足、怪我、コンディション等の事情から登れていませんでした。2016年のワディントン山群でも大きな壁を登ることはできましたが、



マウント・サーダグラス北西壁へ向かう山田

主目的の縦走という目的は果たせぬままでした。こうしてふと結果を振り返ってみると、ロッキーの山は近いが、壁の大きさ、難度、脆さ、雪のコンディションを考えると一筋縄では登

れないということが理解できました。テンプルとワイルドシングスを登っただけでいい気になっていたのです。

日本では、山が奥深いため、冬のクライミングをしようと思うと必ずテントを担ぎ、山に入らなければなりません。しかし、カナダは駐車場から直ぐのところ数百メートルの氷瀑や良質のミックスクライミングルートが点在しています。ここに落とし穴があったわけです。ロッキーに来てクライミングの技術は日本に居た頃に比べ、格段に上がりましたが、山屋としての忍耐力や体力など山の中の厳しい環境における耐性が知らない間に落ちていました。こんな状態では厳しいクライミングはこなせたとしても、大きな山の頂上に立つことはできないのは当然でした。



フルムーンコーナー初登攀中取り付きにて

それを理解した私は、今年はハードなミックスクライミングよりもっと山でのアルパインクライミングにフォーカスしなければいけないと思いました。10月末から就労ビザが切れ、またフルタイムクライマーに戻った東海支部員のボブ菊池(徳)と一緒に初心に帰り、毎週山に出かけました。足慣らしということで登ったマウントサーダグラス北西壁(3411M)では簡単だと腹をくくっていましたが、重たい荷物と延々続くラッセルに加え、山頂へのアタックでは四方八方から来る強風に耐えながらの厳しいクライミングでした。



マウントキッド西壁

それを理解した私は、今年はハードなミックスクライミングよりもっと山でのアルパインクライミングにフォーカスしなければいけないと思いました。10月末から就労ビザが切れ、またフルタイムクライマーに戻った東海支部員のボブ菊池(徳)と一緒に初心に帰り、毎週山に出かけました。足慣らしということで登ったマウントサーダグラス北西壁(3411M)では簡単だと腹をくくっていましたが、重たい荷物と延々続くラッセルに加え、山頂へのアタックでは四方八方から来る強風に耐えながらの厳しいクライミングでした。そして、私が9月から目を付けていた壁であった無名2695M峰北壁では最低気温 - 30° 近くあったであろう極

寒の中、24時間行動の末に初登攀(フルムーンコーナー、M6, WI4 R, 400M)をすることができました。そして間髪入れず次の週に登った、マウントキッド西壁(2956M)では、うまく良いコンディションも掴むことができ、一昨年から三回目の挑戦にしてようやく完登することもできました。これらの登攀は自分たちの限界レベルでのクライミングではありませんでしたが、一つ一つの山行経験が自分の糧となっていることが、体験できた素晴らしい山行でした。

今後の展望「自分の進むべき道」

早いもので、2017年も終わろうとしています(これを書いているのは11月です)。来年の抱負も含めて、自分の進むべき道について書いておきたいと思います。シンプルですが、カナダでアルパインガイドとして生計を立てながら、自分のクライミング特に、アルパインクライミングを追及していくことです。カナダに来た頃の想いといい意味で変わっていません(笑)。でも3年が経ち、生活の方も現実味が帯びてきたので、自分の中でのこれからこうしていこうという具体的なイメージはできてきました。今この場では語れませんが…。

来年は、夏にアルパインガイドの試験を受けるつもりです。これに合格すればカナダのどんな山でもお客さんをガイドすることができます。そして、無事に合格することができれば、当分は試験という重圧からようやく解放され、自分の山に集中できると思います。今年と来年の2シーズンはガイドという生活の目標に向かいながら、ロッキーで盛り込みたいと思っています。そして、2019年秋にはどこか一つ大きな山をヒマラヤで行いたいと思っています。尾上さんの「早くヒマラヤに行けよ」という言葉はいつも私の中であって、またヒマラヤの頂上に立ちたいという想いは日に日に強くなっています。まだ、目的の山も何も決めてはいませんが、また近いうちに東海支部に力を借りる時が来ます。この場を借りてアナウンスさせていただきます。その時に最高の結果を出せるように、ロッキーの山へ向かいたいと思います。

今後とも宜しくお願い致します。それでは皆様良いお年を！！

秋のブラインド登山

ボランティア委員会委員長 前田隆久

現在、ボランティア委員会の視覚障がい者支援登山としては、一般公募をしてオープンに参加を呼びかけている春と秋のブラインド登山と、東海支部の支部員である視覚障がい者をメインにした「ひまわり登山」を年4回、あわせて6回開催している。

視覚障がい者の方たちとの登山は、支援する側も漠然と登っているわけにはいかず、常に足の置き場、周囲の環境等に注意を払いながらの登山となる。視覚障がい者の方は、私たち以上に五感を研ぎ澄まして登山している。それが伝わってくる。支援する側にとっても改めて気づきの多い、貴重な登山経験となっている。

さて、今回の秋のブラインド登山は、福祉バス(大型バスが廉価で利用できる利点)の抽選に外れたため、久しぶりに公共交通機関を利用しての山行となった。

公共交通機関を利用して視覚障がい者の方も安全に登れ、なおかつそれなりの山となると、選択の幅が狭く成らざるを得ない中で、委員会で検討し、美濃の南宮山を選択した。

11月12日(日)、秋晴れの絶好の登山日和になり、東海支部19名、視覚障がい者8名、付き添い3名の総勢30名で行った。

金山駅に集合ののち、JRで垂井駅へ、垂井駅と現地登山口でさらに4名合流し、南宮山を目指した。標高こそ419mの里山だが、南宮山自体が関ヶ原の合戦の舞台でもあり、また、登山口には美濃国一の宮、南宮大社もあって、登山以外の楽しみも多い山行だった。南宮山自体も意外と大きく、登山としても十分楽しむことができた。

公共交通機関を利用した場合30人からの人数は、いろいろな面で大変である。できれば次回からは、なんとか大型バスを利用した山行に戻したい。

視覚障がい者支援登山は、できれば今年度内に2~3回実施したい。



美濃の南宮山にて

写真展 作品募集中！！

東海支部の「第16回東海岳人写真展」に展示する写真を募集しています。

写真展の概要

主催：日本山岳会東海支部 中日新聞社 (共催)
期間：2018年3月15日(火)～20日(日)
場所：名古屋市民ギャラリー栄(名古屋市栄)
募集期間：2017年11月15日～2018年1月15日
応募対象：東海支部の支部員、支部友会員、猿投の森つくりの会会員、東海YOUTHメンバー、東海学生連盟メンバーなど

写真展 Q & A

- Q どのような写真展ですか？
A 東海支部が主催する山と自然の写真の展示会です。
- Q 誰が写真展を見に来ますか？
A 一般市民の方がたくさん来ます。前回は6日間で2,500人が来場しました。
- Q 誰でも出展(応募)できますか？
A 東海支部および関連団体の会員が応募できます。
- Q 審査はありますか？
A 審査や賞はありません。応募された作品はすべて平等に展示します。
- Q どのような写真を展示しますか？
A 山や自然、登山に関する写真が中心ですが、題材に制約はありません。
- Q 特に写真の趣味はありませんか？
A プロやカメラマニアの写真展ではありません。山仲間の写真展です。
- Q 立派なカメラは持っていません。
A 普通のデジカメで撮った写真でも十分いい作品になります。
- Q 自信のある写真がありません。
A トリミング(切り取り)やレタッチ(画像調整)をすることで見違えるほどいい写真になります。写真展実行委員会がお手伝いすることも出来ます。
- Q どのような形で展示されますか？
A 木製パネル(640mmX540mm 厚さ20mm)に写真を貼り付け展示します。写真パネルは返却されますので、自宅に飾って楽しむことが出来ます。
- Q 写真展に出展したことがありません。
A 前回の写真展でも初めて出展した方がたくさんいます。皆さん出展してみよかったです。
- Q 応募費用・手続きは？
A 応募費用は1点13,000円です。支部報同封の応募申込書に必要事項を記載して提出してください。詳細は、支部報同封の「作品募集のご案内」をご覧ください。または写真展実行委員会にお尋ねください。支部ホームページにも掲載してあります。

東海支部写真展実行委員会



前回の写真展の様子



森の勉強会～亜熱帯性樹林

自然保護委員 中村鎮雄

委員会の年間行事である自然観察山行が、他支部にも声をかけて10月19日(金)～20日(土)の1泊2日で松風園(蒲都市三谷温泉)及び泉岳寺周辺(田原市)で開催された。今年度は目的を「森の勉強会」テーマを「亜熱帯性樹林」と定めた。

一日目の座学の開催にあたり井藤恵美子委員長から『「森の勉強会」が昨年終了した。寂しい感じがあり、自然観察山行を「森の勉強会」を目的に開催し、他支部に呼びかけたところ関西・京滋支部からも参加を頂いた。うれしく思っている。』との挨拶があった。

続いて「猿投の森の動物たち」と題して東海支部の南川委員からスライドを交えてこれまでの動物調査の活動について発表があった。2013年6月に東海支部がまとめた冊子「猿投の森の動物たち」の発刊以降も調査を続け、現在までに多くの資料が集積されている。その調査結果から①猿投の森での持続可能な哺乳動物の傾向管理が出来る調査地点が確立できた。②小型哺乳類(ネズミ・モグラ等)の調査が難しい。今後の課題として①生物多様性豊かな森づくりに向けての調査方法の確立(生物・植生等の偏移)②ニホンジカによる動向、生息数調査と森の植相、植生の観察により変化の確認と早期対策があるとまとめた。

休憩後、豊田森林学校の北岡明彦氏から「愛知県一の亜熱帯の香がする樹林、泉福寺の森」と題して講義があった。講師から「自然を見る一番のポイントは、どうして目の前の植物がここにあるのかを知ること。そこにある花や木の名前を覚えてだけに終わってしまわないで、この植物がここにある由来や時代の変遷などを知ると植物が身近な植物となり親しみを持って見ることが出来る、自然を大事にする気持ちを持つことが出来る」との話があった。続いて自然を知るポイントとして「地質・地形と植物の関係」から花崗岩、チャート、変成岩など森林土壌を形成する岩石の特徴について。次に「植物の水平分布と垂直分布」について。そして「森林の水平分布と垂直分布」について講義があり、「植物たちは標高が上がるにつれてどんどん変わっていく。山



アサギマダラの食痕

で休憩した時に周りの樹木の名前を書いてみる。登って来た順番に樹木を書いてみる。麓から順に書いてみる。そうすると垂直分布になってくる。2000m級の山に行くときよくわかる」と話があった。最後に明日、観察する泉福寺の「亜熱帯の香がする樹林」の植物相について、その特徴を「つる性が多い常緑広葉樹林が広がっている」また「暖帯南部から亜熱帯の植物が生育する」と紹介し、講義を終えた。

2日目はフルドスタディ。ここでは観察した植物等を紹介する。60cmもの板根のあるスダジイ。森の奥の古生層のチャート。ホルトノキ。ヤマモモ。ヤマモガシ。ミミズバイ。サカキカズラ。テイカカズラ。サネカズラ。ハスノハカズラ。カクレミノ。イズセンリョウ。トキワガキ。ウラジロガシ。ムベ。タイミンチバ。シタキソウ。ヌマダイコン。ミソナオシ。イヌシデ。イヌマキ。キジョラン。キジョランの実。ウバメガシ。ヒメイタビカズラ。クロバイ。ヒメコウジュ。リンボク。ツルウメモドキ。リュウキュウマメガキ。板根が1mほどあるホルトノキ。駐車場に戻り北岡先生からの今日の観察のまとめを聞き終了。「亜熱帯の香がする森」の素晴らしさを感じることが出来た一日だった。



泉福寺本堂前にて

東海岳人列伝(8)

～怨みに報ゆるに徳を以て生きた石岡繁雄～

編集委員 西山秀夫

石岡繁雄氏は大正7(1918)年1月に生れた。ウィキペディアにアクセスするとざっと石岡の人生を概観することができる。

「アメリカ合衆国カリフォルニア州サクラメント生まれ。

3歳で父の故郷である愛知県愛西市に戻り、愛知県立旧制津島中学校(現・愛知県立津島高等学校)、旧制第八高等学校をへて、名古屋帝国大学工学部電気学科卒。

名古屋大学職員、国立豊田高専教授を経て同鈴鹿高専教授を退職後、石岡高所安全研究所所長。

2006年8月15日、大動脈瘤破裂の為、死去、88歳没。」と記載されている。没後11年経過した。早いもので2018年1月は生誕100年になる。

石岡繁雄氏は岩稜会を拠点に岩登りに青春をかけた。鈴鹿の藤内壁でトレーニングを積み、北アルプスの屏風岩で昭和22(1947)年1月に初登攀を達成するなど活躍した。その記録は『屏風岩登攀記』を著すことで収められた。

昭和30年代半ばからは東海支部設立に奔走する。若者たちの集いに顔を出してヒマラヤ遠征へと呼びかけたのだ。設立時にはすでに43歳となっていた。

1965年には内紛で須賀太郎支部長、石岡繁雄副支部長とも更迭された。表向きは業務多忙で辞任ということになった。

東海支部運営からは意外にあっさり離れた。

東海支部運営からは意外にあっさり離れた。



晩年の石岡繁雄氏(86歳)

石岡の人生は東海地方きってのエリート校だった八高から名古屋帝大を卒業、ナイロンザイル事件がなければ平凡な人生を全うしていた

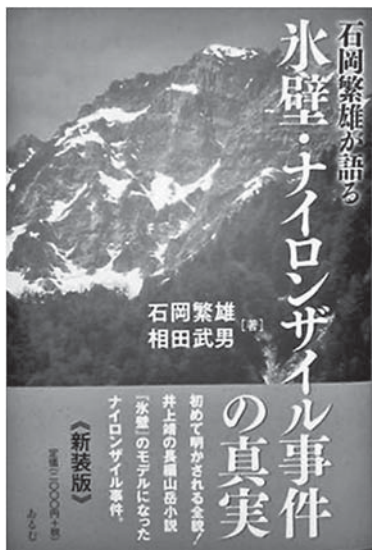
はずだった。下宿先の娘と結婚して順風に見えた。写真が伝える可愛い奥さんとの蜜月の時代は続かず、ナイロンザイル事件が陥穽のように待ち構えていた。幸福な人生が一転したのは37歳の時だった。

昭和30(1955)年1月2日に前穂高岳東壁の冬期初登攀を目指した岩稜会パーティの直径8ミリのナイロンザイルが岩角で簡単に切断し、実弟・若山五郎を失う事故に遭遇。墜落死への疑問から石岡繁雄の人生の波乱が始まる。以下もウィキペディアから転載する。(細部で適宜編集)



前穂高岳

「登山クラブ「三重県岩稜会」に所属する石原國利(当時中央大学4年生で、リーダー、注:2代目支部長、名誉支部員)、若山五朗(三重大学1年生)と沢田栄介(三重大学4年生)の3人が北アルプス前穂高岳東壁を登攀中、若山が50cmほど滑落した際、頭上の岩にかけた新品の直径8mmナイロンザイルがショ



ックもなく切断、若山は墜死した。岩稜会がナイロン製ロープを使ったのは初めてで、切れた三本撚りφ8mmのナイロン製ロープはφ11mmのマニラアサ製ロープに匹敵する引っぱり強度があるとされていた製品であった。



切れたナイロンザイル

パーティが下山してみると、1954年(昭和29年)12月28日にも近くの明神岳東壁で東雲山溪会パーティが「確保者にほとんど墜落の衝撃が伝わらなかった」など類似点が多い事故があったと聞き、関係者はロープの強度に疑問を持った。さらに翌1月3日には同じ前穂高岳で大阪市立大学山岳部パーティが使ったφ11mmのナイロン製ロープが切断する事故があった。これらの事故でそれぞれ1人が重軽傷を負い、事の重大さが明らかになった。」

ナイロンザイル切断事件は石岡の幸福な人生の切断でもあった。

鋭角の岩に当たると簡単に切断することも知らずに利用していた。事件の真相を分析し、ナイロンの性格にありと、公表すると登山技術の未熟を批判される。身内の不幸に加えて誹謗中傷にも負けず、真実を明らかにしてゆくのは学者というより、登山仲間をザイル切断事故の再発を防止したいとの願いであった。

蒲郡での公開実験では鋭角の角を丸めるという卑劣な工作をする。その後の責任逃れの言説。また篠田氏を名誉会員にすることへの反対声明は筆者も居合わせた。歴史ではなく体験である。後に訴訟となって私どもを驚かせた。

あれは何だったのだろう。このナイロンザイル事件の真相をもっともよく知るのは内側にいた尾上昇氏(元日本山岳会東海支部長、

前日本山岳会会長)だ。事件の語り部を自称して憚らない。

岐阜支部での講演の最後の方に、人間の弱さが凝縮されている文があるので一部を転載する。

「ここでは、大企業の強大な力と大学教授、博士という権威で、都合の悪いことは闇に葬ろうといった意図がありありと感じられるのです。つまり、それは企業エゴ以外の何物でもないということになるわけです。ただ、そういう噂に戸は立てられないのでしょうか。世間にどんどん知れ渡っていきます。マスコミなどの追及があるものですから、ますます篠田さんの立場は悪くなってしまいます。とうとう篠田さんは最後に何を言ったかという「あれは登山用のザイルの実験ではない。船舶やグライダーなどの牽引ロープの実験を目的にした」と言い逃れるのです。

東京製綱と東洋レーヨンに黙って、何もコメントしなくなった。その時、石岡先生の実験結果を素直に認めて、自分たちも公開実験をやって「ザイルは確かに岩角に弱いことはよく分かりました。我々も知りませんでした。まずかった。石岡先生も含めて本当に強いロープを作るように共同開発しましょう」位の姿勢を示せば、その先の流れは全然変わっていただろうと思います。

そして先ほどの訴訟が不起訴になってしまう件ですが、その時の担当の斉藤検事という方が「あの実験は間違いではなかった。ああいう条件下でやったテストであるので、あれはあれで正当化される。名誉棄損には当たらない」という理由で不起訴処分にして訴えを退けました。一度不起訴処分になると、日本の裁判制度では同じことで再追訴することはできません。それで石岡先生は行く手を閉じられてしまうわけです。

しかし、世の中ではやはり石岡先生の言うことが正しいのじゃないか、という評価が出て来ました。徐々に石岡先生の主張を支持する人たちが増えていくのですが、一方、登山界でも無知な人たちやそういうことにあまり関心のない人は、そのままナイロンザイルを使い続けました。その後も20件くらい墜落事故が起きて、死んでいるのです。次々と起きています。ほとんど夏の岩登りで、岩角

に掛けられたナイロンザイルがプツンプツンと切れて墜落する事故が頻発します。

結局、篠田さんは企業に利用されて葬り去られた。名誉会員推挙はそんな篠田さんへの慰めだったと思う。だが、慰めて欲しいのは石岡さんの方だろう。こうして日本山岳会の汚点として今も残る。」

引用は以上。

石岡繁雄氏は老子または論語の言葉「怨みに報ゆるに徳を以てす」で泥試合を避けた。

意味はひどい目にあって怨みを抱くような相手であっても、仕返しをするのではなく、許しの心で、あたたかく接するべきである、ということ。それは現実的には大変難しいことである。

本来の意味は“ある人が「恩徳で怨みの仕返しをするのは(=以德報怨)、いかがでしょう」と言った。先生は言われた「では恩徳のお返しには何ですのですか。真っ直ぐな正しきで怨みに報い、恩徳によって恩徳にお返しすることです。」ということ。

その「真っ直ぐな正しきで怨みに報い」たのは自宅に石岡高所安全研究所を設立。落下実験設備を備え、ナイロンザイルの性能向上に人生を掛けるのであった。ザイルメーカーや篠田氏を訴えても意味がないことを悟ったのである。

PL法制定のきっかけになった。道具は使い方一つで危険というメッセージは強烈だった。生命を軽視し、法令順守に取り組まない企業が淘汰されるのは世の掟である。近年でもハーネスの着用が悪く転落死亡事故を起こした遺族がシュイナード・イクイップメントに賠償請求。対応のためにブラックダイヤモンドを立ち上げた。ナイロンザイル事件がアメリカならばもっと厳しい訴訟に発展していただろう。



ナイロンザイル事件がモデルになった小説

このような人間性を見ると八高時代に学んだであろう漢詩文の教養の高さを思い浮かべる。教養は実人生では辛い現実にて耐えて修養になった。今は娘のあづみ氏が父の遺志を継いでいる。

酒に強くバッカスの異名があった。支部のイベントで酒が入ると民謡「安曇節」をせがまれて唄った。安曇節を陽気に唄う石岡繁雄氏はもういない。

♪ 寄れや寄って来い 安曇の踊り田から畑から 田から畑から 野山から 野山から 野山から 〈チョコサイコラホイ〉

日本アルプス どの山見ても 冬の姿で 冬の姿で 夏となる 夏となる 〈チョコサイコラホイ〉

何と思案の 有明山に 小首かしげて 小首かしげて 出たわらび 出たわらび 〈チョコサイコラホイ〉

聞いて恐ろし 見て美しや 五月野に咲く 五月野に咲く 鬼つつじ 鬼つつじ 〈チョコサイコラホイ〉 ♪

2018 山岳カレンダーのご案内

このたび(公社)日本山岳会東海支部は2018山岳カレンダーを作成いたしました。東海支部員が撮影した迫力ある写真で手作りでの仕上がりです。みなさんふるって購入してください。A4サイズ見開き(全12枚毎月版)一部 500円税込

11月22日～販売予定

お問い合わせ、申し込み 公益社団法人 日本山岳会東海支部
room01@jac-tokai.jp 高橋玲司 090-8953-4177



わが山登りと東海支部 その1

元・常務委員(支部報担当) 安藤忠夫

私の山登りは、いわゆる山岳会に属した正統派(この言葉が成り立つならば)に類するものではない。実家は、もっとも近かった足助の街まででも、徒歩ならば2~3時間ほども要する山また山の中。成長するにしたがい、瀬戸市、尾張旭市、春日井市と住まいを移しながら、少しずつ大都会(?)たる名古屋の街に近づいてきたが、紛れもない田舎者で、いわゆる根っからの“山猿”である。

だから、私を取り巻く人たちは、登山はおろか山そのものに対して“敬して遠ざける”人たちがばかりで、高い山に足を踏み入れるなどとはもってのほか、といった価値観を持つ人たちの中で大きくなった。ところが、ふとしたきっかけで山登りをはじめてしまった。

昭和38(1963)年といえば、愛知大学山岳部パーティー13人が雪の薬師岳で遭難した年。その前年の夏、当時の時流に乗り遅れまいと、卒業した高校の同級生数人で、穂高という山に登ろうではないかと、話がまとまった。

梓川沿いの径を歩いて、涸沢まで登ってテント泊。生憎の荒天つづきで、山小屋で調達した薪による炊事ではまともな食事がとれず、山なんか二度と登るものかと悪態をつきながら、ほうほうのていで逃げ帰った。

ところが、あろうことかその同じ年の夏休みに、北海道の一人旅の途中で利尻島に渡り、同宿した2人の登山者に誘われて、雨の利尻岳に登ってしまった。さらにその年の秋口に、伊吹山、恵那山とたてつづけに登ったことで、あとはおきまりの山キチになった。

だが、山に向かう私は、相変わらず異端視扱いで、周りの人の眼から隠れるようにしていた。親しい山仲間はいない。知識もないし、登山技術を授けてくれる先輩もない。いきおい、単独による山登りが多くなった。

22、3歳のころには、いっぴしの登山家気取りだった。正月の空木岳に単独で登っていたし、御岳や木曾駒、穂高、富士山などの初冬の山も、経験していたからである。愛大生が遭難した薬師岳にも3月に登った。

学校を卒業して、一旦はそれなりの道に入り

かけたが、先行きの見込みも、能力の無いのも悟った。一方で、山登りは一生続けるだろうな、いろんな雪の山の頂に立ってみたい。外国登山もしてみたい。と、山への情熱と、未知の地への憧憬とがないまぜになった気分を押さえきれない。で、いさぎよく方向転換をすることにした。夏休み、冬休み、春休み、と、長期の休暇がある教員ならば好都合だろうと、県立高校の教員をすることにした。

それから10年近くは山に入り浸りの生活だった。ある年の夏などは、40日の休暇期間中の、35日を上高地周辺で暮らしたりした。また、ずっと後年のことだが、裏剣の池ノ平小屋で小屋番をしたこともある。そんな山人生の目標の一つに、単独で、主だった山の雪の頂に立つことを秘かにすえていた。

おかげで、鹿島槍ヶ岳では豪雪に見舞われて下山できなくなったり、剣岳山頂直下で雪崩に巻き込まれたり、不帰岳Ⅱ峰では黒部側に滑落して気を失っていたこともある。また穂高・横尾の冬期小屋では、死に神(?)にとりつかれたり、散々な山登りを繰り返していた。

それら厳冬期におけるアクシデントの話は別の機会に譲るとして、稀な事故ではあるが、登山者のだれもがごく普通に遭遇しそうなものの、1つ2つを記してみよう。

クマとの遭遇

クマに対する恐れと、その一方で、カムイの使者としての畏敬の念は、単に動物園の檻を通して観ているだけでは感じられない。それなりに愛嬌があって、ときには剽軽な行動を見せたりして憎めないものだ。“動物ものがたり”では、縫いぐるみをまとったような丸々とした容姿で、愛くるしい存在として登場するのが常だったりする。だが、ヒグマもツキノワグマも、原野で、同じフィールドで対峙すると、その威厳さ、恐ろしさを真に感じられるものである。

私は、日高の幌尻岳・七ツ沼カールで、ヒグマに襲われかかった。2頭の子連れの母グマが、子グマと私の間に割って入ってきて、真っ赤な口をあけてすごんだ。逃げる事など思いもよら

ず、腰を抜かして、へたりこんでいるだけでした。それは、私の27歳のとき、8月中旬で、単独登山をしていた時だった。

さらに付け加えるならば、その年の7月下旬に、福岡大学のワングル部の学生3人が、すぐ隣りのカムイエクウチカウシ山で腹部を食べられ、遭難死した年。日高一帯が夏のはじめから登山禁止になっていた。入山禁止が解けた直後、私が一番乗りだったのではなかったか。

直に危害を加えられなかったのは、偶然以外の何ものでもなかった。ただ、ここで少しばかり脱線するが、この貴重(?)な経験を通して得た教訓、私なりに会得したクマ遭遇時の対応策を記しておこう。

子連れのクマは、子どもを護るために人を襲うという。「子連れの母グマと遭遇した時、いちばん危ないとされるケースは、子と親に挟まれてしまった時」と識者は語る。で、私が、幌尻岳でクマと鉢合わせしたとき、幸いしたのは、この位置関係が子グマ、親グマ、私という順であったこと。ほかに、①ヒグマに睨み付けられ、身動きできなかつたこと。②ヒグマから目を逸らさなかつたこと。③背を向けて逃げ出さなかつた(逃げ出せなかつた)こと。などが考えられる。運悪く襲われたならば、叶わぬとも、闘う以外に特段の方途はない。



北アルプス中央部での敗退

1970年10月中旬、職場の同僚と2人で、北鎌尾根の登攀に胸を膨らませ、信州大町の奥・葛温泉から荒れ果てた高瀬川沿いの登山道を行って、湯俣からさらに奥の千天の出合に向かった。シトシトと降り続く秋雨をついて、たそがれ迫った千天の出合に着いた。ここにある避難小屋で泊まるつもりだった。ところが、小屋は朽ち落ちていて、先行者がそのわずかの廃材とビニールシートを使って小屋がけをしていた。目算が狂って慌てた。やむなく河原に出て、わずかな空き地にテントを張った。明日の天候回復を期待しながら。

ぐっすり寝入っていた。異様な水音、それに混じってゴトンゴトンと岩の跳ねる音。寝返りをうち、腕を延ばす。?、指さきが濡れる。水?、水だ! 濁流がテントを洗っている。暗闇の中で

必死に靴を捜し、寝袋、ザック、テント、……と、夢中になって流れの外へ放り出した。0時30分ごろだった。雨は降り続けている。

濡鼠のまま長いながい夜を耐えねばならなかった。睡魔と寒気が容赦なく襲ってくる。時計の針はいつこうに時を刻んでくれない。寒い! 軀の震えが止まらない。それでも腰を降ろせば眠りに引きずり込まれてゆく。

白々と夜が明けた。水際に放っておいた荷物を回収した。ヤッケ、食糧、それにお金の大半を失っていた。もはや私たちの前には、山稜への道はなかった。引き返すことにする。前日とは違って水俣沢が濁流に渦巻いていた。

日本山岳会に入会した後のことだが、支部の山行でも次のようなことがあった。

私の左腕の肩から二の腕にかけて、今も2、3コの傷痕がある。黒部・下の廊下で遭遇した落石の痕跡である。

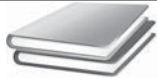
1994年9月下旬の東海支部の山行だった。萩徹さんのリーダーのもとに、今は亡き徳島和男氏と私が付いていた。20人ほどの団体で、垂直の岩壁に幅1m、高さ2mほどの歩道が穿かれた下の廊下の回廊を、一団となって辿っていた時である。あろうことか、突如、最後尾にいた私の頭上に、天井の岩が落下してきた。1m四方ほどの大きな岩の塊だった。

岩塊は、前頭部→左肩→左つま先に接触して、轟音とともに谷底へ落下していった。私は、はずみで後方に押し倒され、メガネが飛んでいた。足下にも、ひと抱かえもふた抱かえもある岩塊がいくつも転がっている。頭頂とつま先に痛みがあつて、直後は、耐えられないほどだった。が、それは圧迫による痛みだけで、擦過傷による傷跡だけが左腕にのこった。

あと10cm、いや5cmほど、前方に体重をかけていたならば、後頭部から、背負っていたザック側に落ちていたはずである。岩塊に押しつぶされ、100m余もある谷底に、たたき落とされていたことは確かだろう。

目標としていた雪山のある程度を登りきり、単独による冬期登山の終了を富士山とし、昭和47年の年末に荒れ狂う山頂に立った。

あとは少しまともな山登り、余裕ある登り方をしたいと思い、方向転換をすることにして、日本山岳会の門を尋ねたのは、30歳の時である。



東海支部の蔵書からの一冊⑭

図書委員会委員長 石田文男

『日本山岳名著全集10』（3著所収）

本書には「泉を聴く」（西岡一雄）、「赤石溪谷」（平賀文男）、「山の素描」（黒田正男・初子）の3著が所収されている。この内の1著である「山の素描」を紹介します。

黒田正夫は明治30年7月2日生れ。小学校の時、父に連れられて妙義山に登ったのが山の病みつきとなる。初子は明治36年1月23日生まれ。大正12年春に結婚。

新婚旅行で天城を越えたのを手始めに、金峰山・八ヶ岳・燕岳・槍ヶ岳に登って初子を教育し、一生の山友達となる。アベック登山の元祖である。大正13年の夏、2人で笛吹川東沢を登り、そして冬山へのスキー登山が始まった。当時の風習からアベックで登山に出掛けるとは批判や妬みがあったと思われるも、貫いた愛情と努力は人知れぬものがあったと思われる。

この書の中樞は正夫の十篇の紀行文と初子の紀行・随想文十二篇で、大正から昭和の初めにかけての登山は貴重な山行記録である。

その内の〈春の山〉序曲では「八ヶ岳の裾野を甲州から信州に入るとき、夜は白々と明けはじめる。・・・山へあこがれてゆくものにとって、天気ほど気になるものはない。・・・ただ、今日はお天気がよい、というだけで、心はおどりが上がる。青碧の空を見ただけで、心が軽くなる。しかも、白い壁の中に、雲の間からいくつかの峰が見えるではないか。常念の三角の頭はくっきりと、・・・。朝日の紅は既がないが、白い尾根と、紫の谷とは次第にはっきりとして来る。穂高も、槍も、鹿島槍も、爺も、それぞれ朝のあいさつをする。この春陽を浴びて、雪の山へ今年の別れを告げに来たのである。山も楽しく迎えてくるであろう」と、心が弾む。

また、次に挙げたものは夫婦で勇ましく果敢に取り組んでいった初々しい山の紀行文、読んでいて爽やかだ。①冬の間・元旦槍岳に登る（昭和6年）、②厳冬の唐松山（昭和5年）、③白馬行（昭和2年）、・・・小槍から西穂高岳へ（昭和4年）、笛吹川西沢・・・他12章。

この1巻は全集（12巻）の一つだが、残念にも揃いは支部蔵書として無く、3巻の所蔵のみである。だが、幸いにも支部に所蔵されている『復刻日本の山岳名著』（全巻）に、この全集収録本の半数が含まれており、是非一読をお薦めする。

1970年9月30日発行 あかね書房

監修：田部重治、尾崎喜八、深田久弥

図書委員 水野和博

『青春の山想』（岡田喜秋）

この著書は42の項目からなっている。他の自著「よろこびの山・かなしみの山」「清里の組曲」「山の賛歌」から再録されたものである。青春前期から30歳ころに至るまでの、山の傾倒を語ったものとして一冊に纏められている。

私が興味を持ったのは、戦争中に中学から大学までの多感旺盛な時代を送っていることだ。山に対して心のほうが変質していく過程を知りたくて、私なりに年齢を銘記して読むことにした。

15歳から始まる。友達から借りた「五万分之一」の地図を見て、ひとりだけの楽しみに耽っている。東京の自宅の2階から「富士」が見えると気付く。16歳は上級学校への受験期を迎える。戦争は太平洋戦争に入りはじめていたが、海軍学校や陸軍士官学校へは興味が無く、どうせ入るなら山に登れる条件のある町へ行きたいと思い松本高等学校の山岳部に入る。昭和17年4月1日のことだった。今の時代でも憧れる山々、槍ヶ岳・澗沢・穂高・乗鞍へ登り、当時は「高い巨大なボリュームを持った山のみ心に心をひかれ、低い山を軽蔑する気持ちがその時に私の心の中におこっていた」と書いている。

19歳の秋、高等学校卒業後、東北大学の山村経済学を専攻する。この時も山に心がひかれたと述べている。仙台という東北の陸奥の山に別種の良さがあることを知る。

・・・これからひとつずつ登ってやろう考える。泉ヶ岳七ツ森・船形山へ、小さな山や

無名の山々へ登る。

昭和21年の冬は20歳、新聞社へ小冊を持ち込み、無名の山々へ共に登りたい気持ちを持つ人を募る。そして、「仙台山想会」を誕生させるのが21歳だ。

昭和22年日本交通公社へ入社後、昭和34年33歳の時「旅」の編集長になり、山や紀行文などの旅心に関する本を出版している。

この詩情溢れる『青春の山想』を読んでみて、機会があればこの著者の他の本にも触れてみたい思いにかられる。

因みに、この『青春の山想』は二見書房の

「山岳名著シリーズ」に組まれた一著であり、このシリーズは最終的に二十数冊編まれた。『真白き山』(深田久弥)、『単独行』(加藤文太郎)、『風雪のビバーク』(松濤明)、・・・

どの著も自らの山に裏打ちされた、詩情豊かな想いの漲るものばかりだ。なんと読んでても新たな爽やかさを感じる。ただし、残念なことはこのシリーズ、支部の蔵書としては三冊しか有していない。

昭和44年11月12日発行

289頁 B6判 発行：株式会社二見書房

読図会員 川瀬真知子

“徳本峠越えとウエストーン祭” 上高地クラシックルートを楽しむ

「日本アルプス」の名を広めた、W・ウエストーンや、日本山岳会を結成した小島烏水、志賀重昂などの登山家が歩いた古の道、クラシックルートから徳本峠越えを楽しみましょう。尚、この催しは、他支部の方や本部の方々との交流も出来、有意義なひとときが楽しめます。

日 時 平成 30 年 6 月 1 日(金)～6 月 3 日(日)
集合場所 6/1 石川旅館 (新島々駅から 徒歩 3 分) PM 5:00
時間 *勤務を終えて 夜着でも OK です
行 程 6/2 徳本峠越え(徳本峠入口～岩魚留橋～徳本峠～山研) 約 20 キロ 10 時間
6/3 第72回ウエストーン祭参加&信濃支部主催の午餐会参加(上高地温泉ホテル)
*終了後は、帝国ホテル前から チャーター車で帰る予定です
宿 泊 6/1 石川旅館(新島々) 6/2 JAC 山岳研究所(上高地)
参加費 12,000 円(他 交通費&民宿代は実費)
募集人員 10 名
ポイント ニリンソウ、サンカヨウ等が咲きほこる クラシックルートを古の人々を偲びながら 徳本峠へ、峠からウエストーンが涙したという前穂高の雄姿を眺め山研へ・・・
夜は懇親会
翌日 ウエストーン祭参加後、信濃支部及び山岳関係者の方々と午餐会
参加資格 H30 年度から支部員対象となります。
支部友の方は 4 月までに本支部に入会手続きをお願いします。

入会問い合わせ&入会申込書は 下記まで

申込み先 山研委員：松本 陽子
メール yo-kom@nifty.com
携帯☎ 090-7859-4031
早めの申込みをお願いします。(4 月末までに)
尚、参加者が少ない場合は、
帰路も公共交通機関利用とします。

その他 主催は山研運営委員会です。
東海支部は前泊宿手配の為に取りまとめています。



同好会紹介コーナー

スケッチクラブ

村中征也

琵琶湖畔と長浜城

長浜市は、JRしらさぎ号で1時間、滋賀県北部の浅井家縁の地。琵琶湖を前面に、山岳地帯を背にした要害の地で、小谷城の攻防や賤ヶ岳が有名。今浜を改名し、秀吉が長浜城を築いてから発展した。石田光成との出会いもこの近く。

琵琶湖と西岸の比良の山並みを描きたくて、11月9日(木)スケッチクラブの7名で訪れた。あいにくの雲で対岸は見えなかったが、湖岸の長浜城は、紅葉した木々に囲まれ、りりしい姿を見せてくれた。



長浜城前にて

豊富。使われなくなった店舗や施設を活かした街並みは、大勢の観光客で賑わっていた。「のっぺいうどん」など独特の食べ物や、名物の菓子をかじり乍らの散策も楽しかった。

登山で訪れる街は、大抵素通りだが、スケッチの場合は濃厚である。何処で描こうかと探すので、街の佇まいや景色がよく見え、地理や歴史の新発見も。山に登れなくなっても多彩な楽しみがある。

こうした中での仲間同士の交流が素晴らしく、新たな加入を求めています。絵の腕前・経験は必要ありません。山好きならば皆OK、一緒に楽しみませんか。4月上旬には、長野県千曲市の「あんずの里」を1泊2日で訪れたいと考えています。また、2月28日(水)～3月4日(日)に、ウイルあいち前の市政資料館で作品展を開催します。春夏秋冬の旅行で描きためた作品を中心に展示します。東海支部の皆さんや知人に是非ご覧頂きたく、ご案内致します。

☛ 気軽に声を掛けて下さい。

代 表…石田好子

事務局…村中征也・武内喜代子

古道塩の道同好会

山中光子

伊那市内の車の往来が激しい国道沿い。「伊那街道歩こう会」看板の下の側溝に大量の鯉がゆうゆうと泳ぐのんびりした風景を楽しみながら、伊那市を抜け南箕輪村に入った。伊那市では「御子柴」と言う表札の立派な旧家があり、土地の名前にもなっている。

南箕輪村に入ると、「神子柴」と言う土地もある。「神子柴の歴史文化遺産」と表示した「旧伊那街道」と看板が建っていたが、道は途切れてしまっていた。「神子柴の文化歴史遺産を伝える会」と表示してあったが、今は活動していないのでは？御子柴と神子柴の同じ地名が付き、伊那市は旧家迄あるが、二つの因果関係が気になる。

南箕輪村の石像群、今は整理中なのか石像にベタベタとメモ紙が貼ってあった。そんな石像群を見て、田端の道標迄歩き、南箕輪村の半分を堪能してきた。そろそろ塩の道の終点に近づいて来ている。と言ってもまだまだ面白い所が出てくる。

最近、民放テレビ局で「塩の道中馬街道」と題して放映されているのを見た。内容にはこちらの取材力が勝っているが、余り景色を見る余裕がなかった事に気が付いた。テレビを見て、こんなに景色の良い所だった、緑が素晴らしかったと再認識できた。

根羽村を再訪し、地元の郷土史家から、私達にとっては珍しい木地師の墓、それも他の墓とは違い、土偶の形をしている墓を紹介してもらった。

先月は木地師学会の会長と売木村にて、村長さんや木地師末裔の方と同行し、墓石をたわしで擦り、文字を懐中電灯で照らし文字を読む。貴重な経験だった。

古道塩の道を探しながら歩く事により、役行者像、木地師の墓等色々なものが見えてくる。



頭に白いメモ紙を付けた石像群

支部友コーナー

◆支部友委員会山行計画

(平成30年2月～平成30年4月分)

2月3日(土)☆

山城：各務原アルプス 山名：岩坂峠
リーダー：水野猛志 締切：1月13日

2月11日(日)☆☆

山城：東海自然歩道 山名：内津峠～善師野
リーダー：磯部 隆 締切：1月22日

2月17日(土)☆☆

山城：鈴鹿 山名：御在所岳(中道)
リーダー：高松信治 締切：1月25日

2月24日(土)☆

山城：恵那 山名：富士見台
リーダー：金谷正起 締切：2月4日

3月3日(土)☆☆

山城：伊勢中部 山名：錫杖ヶ岳
リーダー：田中 進 締切：2月25日

3月24日(土)☆

山城：各務原アルプス 山名：伊吹の滝
リーダー：水野猛志 締切：3月4日

3月25日(日)☆☆

山城：鈴鹿 山名：霊仙山
リーダー：今津英一朗 締切：3月5日

3月31日(土)☆☆

山城：金勝アルプス 山名：鶏冠山～竜王山
リーダー：榊 将美 締切：3月1日

4月8日(日)☆

山城：尾張・東海自然歩道 山名：継鹿尾山・
鳩吹山 リーダー：村瀬恭平 締切：3月25日

4月19日(木)☆

山城：中山道 山名：大湫宿～槇ヶ根一里塚
リーダー：松本陽子 締切：3月29日

4月21日(土)☆☆

山城：鈴鹿 山名：御池岳
リーダー：高松信治 締切：3月24日

4月22日(日)☆☆

山城：鈴鹿 山名：鎌ヶ岳
リーダー：磯部 隆 締切：4月2日

4月28日(土)☆☆

山城：室生山地 山名：住塚山～国見山
リーダー：榊 将美 締切：4月7日

支部友会員数

平成29年11月末 現在/130名

山行対象者 支部友会員及び支部会員

申込み方法 ・支部友会員は申込締切日までに、
各山行リーダーが示す方法で申し込む。

- ・締切日 原則山行日 20 日前まで。(締切日を過ぎての参加空き情報はリーダーに直接問い合わせ下さい)
- ・支部会員は申し込み締切日の翌日以降に、各山行のリーダーへ問い合わせる。
- ・山行の募集人員を超えない範囲で、支部会員の参加申し込みを受け付ける。

次回支部友ミーティング 開催内容のお知らせ

①第28回「日本山岳会100年の歴史」
～その栄光と影～

日時：平成30年2月13日(火)
19:00～21:00 支部ルーム
講師：尾上 昇(東海支部友会委員長)

②第29回「山で死なない方法」
～日帰り登山から2,3日の山行例として～
日時：平成30年4月10日(火)
講師：山田明美(東海支部副支部長)

リーダー連絡先

尾上 昇 FAX: 052-832-3878

メール: onoe@onoe.co.jp

伊藤康信 携帯: 090-2577-8137

メール: kobitokaba@mediacat.ne.jp

榊 将美 携帯: 090-7237-4410

メール: m.sakaki@minds-consulting.jp

金谷正起 携帯: 090-9931-3600

メール: kanaya.masaki@rouge.plala.or.jp

川北一博 携帯: 090-3956-4123

メール: kawakitakazuhiro@outlook.com

村瀬恭平 携帯: 090-4186-9876

メール: hoshizakari@ezweb.ne.jp

田中 進 携帯: 090-9191-8666

メール: t-susumu@peace.ocn.ne.jp

今津英一朗 携帯: 090-2616-7549

メール: imazu.eiitirou@maroon.plala.or.jp

磯部 隆 携帯: 090-9180-7245

メール: takass@yk.commufa.jp

松本陽子 携帯: 090-7859-4031

メール: yo-kom@nifty.com

高松信治 携帯: 090-3156-5268

メール: takama2nobu3@yk.commufa.jp

水野猛志 携帯: 090-5866-3781

メール: r34668@bma.biglobe.ne.jp

委員会報告

【登山教室】

10 数年の歴史を有する登山教室も朝日講座が9月で終了しました。また中日講座も明年3月で閉講の可能性大です。多年に亘って皆様にはリーダーとして、指導員として大変ご協力を頂き有難うございました。

カルチャーセンターの熱意の変化、登山教室自体の形態の陳腐化、経年劣化などいくつかの要因があるのでしょうか？反面、本年開講した我が登山学校へは100名近くの応募がありました。近くの鈴鹿、南北アルプス、各百名山などでも非常に多くの登山者がいます。

これらから、当支部に於いても再び新たな決意で、エネルギーを集結して主体的自主的に登山学校を運営していくことは大変意義のあることであります。

天野俊明

【亀の会】

亀の会の11月16日に傘寿(数え80歳)のお祝い山行を催行しました。

11月の月例山行は、傘寿を迎えられた二人をお祝いする山行でした。奇しくも月例亀山行100回の節目になりました。

9年前に亀の会が発足したときには、「傘寿まで山歩きが出来るよう頑張ろう」が目標だったのですが、いまや傘寿は、誰もが認める通過点です。現在の亀の会会員で傘寿を過ぎた方は、本年米寿(数え歳88歳)を迎えられた大坪さんをトップに17名になります。発足時は一人もいなかったことからすると、隔世の感がします。傘寿到達者が、年々増えしかも元気に山へ行けるのがとても嬉しいし、あとに続く者にとっても、励みになっています。



笠置山にて

今回は、京都の笠置山へ行き、笠置寺の紅葉公園でお祝いのパーティをしました。色づいたモミジに囲まれ、足下もモミジの絨毯、祝宴としては絶好の場所でした。佐原光子さんの詩吟が、宴会に彩りを添えました。

広島支部との交流会を実施しました。

11月15日広島支部の幹部3人が来名し、東海支部の山田、片岡副支部長、鈴木山行委員長、毛利総務委員長、そして亀の会から4名が参加して、支部ルームで意見交換会を行いました。「広島支部は、会員230名、平均年齢63歳、半数が高齢者。みんなと一緒に山行についていけなくて、例会から遠ざかっている人も多い。東海支部の亀の会のような組織を作り、広島支部の活性化の一助にしたいので、亀の会の活動を知りたい」というのが来名の主な目的でした。

亀の会からは「亀の会の発足のいきさつ」、「亀の会の運営ルール」、「昨年のお亀の会の活動実績」を中心に説明しました。

広島支部で特に関心を持たれたのは、「チーフリーダー、班リーダーをどう確保しているか」と「安全山行啓発方策」(「10分間講座」、「事故発生時の対応の手引」など)でした。

リーダー育成、確保に苦勞されているのは、どこも同じだと思います。

加藤守彦

【東海学生連盟】

寄贈装備品のお礼と今後の活用、今後の提供について



本年度、東海学生山岳連盟加盟大学生に対し、皆様からの装備の寄贈をお願いしたところ、瞬く間に溢れるばかりの装備を寄贈していただき、心より御礼申し上げます。

今年度、春の東海学生山岳連盟の総会で『冬山に行ったことがあるもの』との質問に1名のみという危機的回答を得ました。

私が支部長として拝命いただいたときのト

リプルワンの目標『安全第一、一体感を持つ、NO1を目指す』の中で、東海支部の設立時からの根幹であるヒマラヤ登山を主とする世界のNO1を目指す思いを常に背負ってきました。次世代の世界的な登山を目指せる若者を東海支部から輩出できるよう、学生と青年部と一体となって取り組んできました。冬山へ行くぞ！との問いかけに18歳からの若き学生8名が名乗りを上げてきました。

このメンバーを中心に『冬山へ行こうプロジェクト』を始動いたします。きれいな山登りばかりではない、泥臭い原始的な大学山岳部的な山登りを復活させ、きちんとしたアルパインクライミングの出来る学生を育て、東海支部の次世代となるよう育てていきます。教育費の高騰や経済の低迷などがあり、今の学生は我々のと

きのように決して楽ではない現状もあり、寄贈いただいた装備一つ一つに一喜一憂し使ってくれると思います。本当にありがとうございます。

今後支部長、東海学生山岳連盟理事などでプロジェクトの指導を行う予定です。いただいた装備に対し厚く御礼を申し上げるとともに、今後もまだ利用可能な装備に対して、提供くださるようお願い申し上げます。

高橋玲司

個人山行もJAC東海登山届けを！

専用携帯電話(担当 山田明美)

080-2632-3776

本部にも届けられます

東海支部俳壇

山蕩児 心酔

初冬の鈴鹿路千草街道を往く

◎千草街道||千草から甲津畑へ抜ける

昔の鈴鹿山脈横断街道

夢の跡瓶子の欠片霜に浮く

◎杉峠の下には、マンガン鉱山があって、

三〇〇人が住んでいた。

冬木立往時を偲ぶ千草越え

小春日や昼飯くらう屋敷跡

冬枯れや信長も越ゆ杉峠

苔むして崩れ石垣黄葉落つ

支部友夏山行 // 蝶ヶ岳 //

汗みずく長堀尾根に果てはなし

雲海や庄巻の槍・穂高岳

恩讐の奥又の壁夏霞

◎ナイロンザイル事件の舞台、奥又白の
岩壁を正面に見る。

手袋の暖かさほどに君慕う

西山秀夫

カモシカを熊と見まがふ秋の山

秋山やアサギマダラは忙しき

山頂に立つしんと秋の冷へ

10/14 鎌ヶ岳に登山

木を伝ふ栗鼠は道連れにはならず

長き夜を本の話や藤内小屋

地味ながらアケボノソウや秋の花

11/4から11/5 裏木曾・井出ノ小路山

青白き月光の下テント張る

吐く息の白く伸びたる夜寒かな

遷宮に備へる美林木曾の秋

秋や日も暮れてランプで下山する

秋深し誰にも会はぬ木曾の山

会 務 報 告

【2017年8月常務委員会】

日時：8月23日(水) 19時00分～20時40分

1. 支部長挨拶(高橋)：8月11日に実施された御在所並びに茶臼山高原における東海支部の山の日啓発活動、猿投山の搜索報告と今後の活動について報告。御在所フェスティバルには国際プロガイドの山本一夫氏を講師に招いて行うので都合の付く方は参加し、当イベントを盛り上げるよう要請あり。

2. 委員会報告

①支部友委員会(金谷)：8月の4件の山行計画は御嶽山と仙丈ヶ岳を中止。尾高山は実施予定。支部友ミーティングで地図読みを実施、25名の参加。7月時点の会員は52名。今後の計画としては9月30日・10月1日に朝明ミーティングを実施予定。

②亀の会(加藤)：6月7月の山行計画実施中に途中下山者をだした。山下りの疲労を心配して参加を取りやめる会員も出た。高齢化に伴って参加を見合わせる人も出たことなどが報告された。会員数は56名。

③岳連(星)：ボルダリングのジャパンカップは愛知が担当で12月9・10日にプレイマウント(守山区)にて行われる(実施団体は日山協)。気象講習会を7月に実施、親子ふれ合いの山遊びは7月20日に実施。

④支部報編集委員会(星)：10月1日発行の151号は、9月8日に原稿締め切る予定。

⑤東海ユース(山田)：8月の予定していた計画は天候不順の為中止となった。代わりに陣馬形山と鈴鹿の前尾根を実施した。6月25日の山岳ファーストエイド講習に参加した3人が講師となり、9月24日に支部ルームにて伝達講習を実施するとの事。

⑥遭難対策委員会(山田)：6月29日から7月9日までの11日間行われた猿投山の搜索に79名、延べで158名が参加したが発見に至らず第一次搜索活動は終了した。経費の支出の報告もなされた。今後の計画としては家族から11月から行いたい希望の有り。登山届に関しては、8月は80件の計画書が出された。

⑦青年部(藤寄)：7月の山行は15山行を実施した。青年部としての取り組みは小川山で7月15日から17日まで12名の参加でクライミングをした。8月は合同山行として8月5・6日に9名で前穂高山北尾根を行った。9月の予

定は16日～18日に槍ヶ岳北鎌尾根と小槍を計画しており、御在所での講習会も計画している。

⑧東海学生山岳連盟(澤井)：ゴザフェスの事前ミーティングは9月9日に実施の予定。開催は9月23日24日に行い、講師として日本山岳ガイド協会より国際山岳ガイドの山本一夫氏を招いて行う。合わせて日中韓の報告があり8月7日～9日に韓国にてスラブのクライミングと懇親会がなされた。

⑨登山学校(尾上)：8月より受講開始、初級7組、中級6組、上級1組の編成で座学・実技を行う。初級実技は尾高山・上級実技は愛知川で実施。9月に朝日カルチャーが廃止され3名ほど登山学校への受け入れの検討をする。支部報と支部友ガイドは、10月から希望する受講生に配布をする。

⑩自然保護委員会(井藤)：2011年～2020年を国連が生物多様性の年と決めた。日本では環境省と国土交通省と農林水産省が一緒になって活動の展開をしている。その中で環境省の事業に応募する事が出来そうなので準備をしたいと考えている。

⑪ボランティア委員会(加藤)：名古屋市の福祉バスの抽選に今回は外れた旨報告がなされた。

⑫写真展・デジタルメディア委員会(毛利)：現在、後援などの申請中と報告を受けている。

⑬森の音楽祭委員会(箕浦)：会場の道路造りを9月12日、23日に計画中。学生や青年部に協力の要請をした。8月23日現在130名の申し込みがある。今後中日新聞や瀬戸市の広報誌での案内が始まると300名ほどの参加申し込みがあると見込んでいる。ハイキングについては100名以上になる可能性が高いので抽選をする予定。

⑭猿投の森づくり委員会(小川)：8月の活動結果を報告書に沿って発表。8月1日のわいがや講座では「あい森と緑づくり税を活かした取り組み」の講義を行った。林道の補修については尾関氏の指示をうけ東海支部主体で実施予定。8月19日自然観察会を実施、テーマは「雑木林の虫」で行い大人21人子供9人の参加で行われた。

出席：高橋、山田、片岡、尾上、加藤、和田、星、井藤、石田、小川、箕浦、藤寄、毛利、金谷、鎌倉、澤井

【2017年9月常務委員会】

日時：9月27日(水) 19時00分～20時30分

1. 支部長挨拶(高橋)：9月23日～24日で全国支部長会議があった。120周年記念事業についての、日本の登山文化についての海外発信などの議題の他、広島支部の事故について話があった。皆さんも安全第一でお願いしたい。登山届の提出について全国の中で当支部が最も進んでいる状態だが、それに甘んじることなく今後共取り組んで欲しい。各委員会で把握している山行について登山計画のチェックをお願いしたい。また、今後、支部へ提出された登山届を自動で本部へ転送することも検討したい。9月24日、ゴザフェスは大変盛況の中終了。講師をお願いした山本氏からも好評を得た。ゴザフェスについては登山界でも注目されているイベントであり、来年は学生だけでなく支部員の参加も検討したい。逆に森の音楽祭へは若手が積極的に参加いただくなど若年者と年配者の交流を図っていききたい。

2. 委員会報告

①支部友委員会(金谷)：8月～9月の山行及び今後の支部友ミーティングについて報告。朝明ミーティングは新入会員はじめ支部友から9名の参加予定。日曜は分散登山実施。次回支部友たよりは、登山学校生徒へも送付予定。

②山行委員会(鈴木)：7月～9月の山行及び今後の山行計画について報告。リーダー育成として登山教室委員会にてザイルワーク講習を実施。7名が参加予定。

③登山学校運営委員会(鈴木)：配布された資料に基づき報告。朝日が9月で終了となるに伴い、生徒9名が登山学校に入校となり93名となった。

④登山教室委員会(鈴木)：中日について3月終了を検討していたが、広報により新たに4～5名の応募があり、4月以降も継続の方向。

⑤亀の会(加藤氏欠席 毛利氏より報告)：9月28日月例山行として宮路・五井山へ15名参加予定。10月10日～13日で那須岳・磐梯山へ18名参加予定。

⑥猿投の森づくり委員会(小川)：9月の活動について報告。森の音楽祭について猿投の森も整備を行っているが、9月は天候不順のため林道整備が終了していない状況。10月10日と12日に作業日を設けるので、是非参加いただきたい。

⑦東海ユース(山田)：8月～9月の活動及び今

後の計画について報告。9月10日に運営委員会を実施し、後期の企画委員を選出。今後の山行計画を立てていく。10月21日にはルームにて道迷いを題材に座学検討会を実施予定。

⑧遭難対策委員会(山田)：登山届の提出状況と登山届提出の取り決めについて一部変更する旨報告。今後は各委員会の山行についても全て支部登山届用 e-mail アドレスへ提出。遭難対策委員長への提出は不要とし、e-mail で一元管理とする。

⑨支部報編集委員会(星)：151号について10月5日の発送予定となった。

⑩青年部(藤寄欠席の為鎌倉)：8月～9月の活動について報告。

⑪自然保護委員会(井藤)：環境省事業「モニタリングサイト1000里地調査」について賛成多数のため応募を決定した。採用されると動物調査についてカメラが貸与されるなどの支援を受けられる。

⑫ボランティア委員会(前田)：9月の活動及び今後の活動について報告。親子のふれあい登山は幼稚園の都合もあり急遽日程変更となった。協力をお願いしたい。家庭裁判所短期委託指導登山について家庭裁判所と前向きに検討中。

⑬写真展実行委員会(井上)：支部報に作品募集の案内を同封予定。登山学校の生徒からも応募も期待している。

⑭岳連(鎌倉)：10月24日に遭難を考える講演会について雪崩をテーマに開催されるため参加予定。→広く参加できる講演会のため、メルマガにて配信の提案あり。了承。

⑮東海学生山岳連盟(澤井)：ゴザフェスは無事終了。外部から10名、7大学から37名の参加。昨年より10名増えた。来年度へ向け、反省点をまとめ、繋げていく。山本ガイドからは来年度も講師について快諾を得ており、より良い講習の実施方法や、山本ガイドとより多くの参加者が交流できる方策を検討したい。

⑯森の音楽祭委員会(毛利)：一般からの参加希望者が300名ほどとなる見込み。ハイキングは70名の定員に対し133名の応募があり、抽選の結果はずれた方には観察会へ参加いただく予定。猿投の森でも報告があったが準備作業への積極的な参加をお願いしたい。

⑰海外登山・インドヒマラヤ(星)：夏に偵察に行ってきたが、今までよりレベルの高い登山となる。来年8月の実施を見込んで準備中。→学

生から是非参加すべきとの提案あり。青年部において今度周知する。

⑧デジタルメディア委員会(井上):通信費の見直しについて進めている旨報告。もう少して完了。

⑨その他(高橋):支部山岳カレンダーについては写真を選定中。常務委員会の懇親山行を12月9日~10日にて実施したい。

出席:高橋、山田、尾上、市川、鈴木、前田、星、天野、小川、井上、井藤、箕浦、毛利、金谷、鎌倉、澤井

【2017年10月常務委員会】

日時:10月25日(水)19時00分~20時40分

1. 支部長挨拶(高橋):登山学校での蜂に刺された件について初期レスキューの今後の有り方を議論してほしい旨の発言と、広島支部から3人、11月15日に東海支部を訪問予定、東海支部からは正副支部長、亀の会3人ほど参加し、高齢者登山の組織について意見交換をすることとなった旨報告。10月28日森の音楽祭を開催するにあたり、準備にあたった関係者に感謝したい旨発言。12月9日・10日に常務委員会忘年会を朝明茶屋にて開催予定、委員会のメンバーにも参加を呼び掛けてほしい旨依頼。カレンダーの試作品の紹介と同時に800部印刷する予定である旨案内有。現在東海支部登山届用メールアドレスに届いている登山計画書を全部本部へ転送することとしたい旨発言あり。-当発言に対し特に異論がなかったため、デジタルメディア委員会に登山届メールが本部へ転送できるよう依頼の方向。

2. 委員会報告

①支部友委員会(金谷):9月・10月の山行報告と9月30日から10月1日にかけて朝明で開かれた支部友ミーティングの報告。12月12日に登山学校生徒と合同の支部友忘年会を行う。会員数は123名で変化なし。支部友員が多くなってきたので来年度は予算アップの要望を予定。支部友山行の登山計画書の本部への提出の徹底を図る。

②会計(市川):今年度の会費未納者は10月の支部報発送時点で60名程度あったが、その内半数の30名ほどから入金有った旨報告。

③岳連(鎌倉):12月19日冬山登山遭難対策委員会開催予定である旨報告。

④山行委員会(鈴木):議事録に基づき9、10月の山行状況報告と1月~3月にかけての山行計画説明。支部長にもリーダーをお願いでき

ばと思っているとの事。

⑤亀の会(加藤):10月10日~13日、那須岳、磐梯山、米山への自主山行実施(19名参加)、10月26日三上山へ定例山行(23名参加予定)。

⑥猿投の森づくり委員会(小川):配布された資料に基づき、10月の活動報告及び森の音楽祭の事前準備整備状況報告、と同時に11月以降の活動予定説明。

⑦東海ユース(山田):6月のファーストエイド講習会参加者による伝達講習会を9月24日開催。企画委員4名の交代の報告と、活動報告並びに今後の活動予定につき説明

⑧遭難対策委員会(山田):登山届の現状については良く出されている旨報告。12月16日~24日に予定している第2回の猿投山行方不明者の捜索への協力依頼。今回は尾根や谷の線沿いでの捜索だったが今回は面での捜索を予定(70~80面を予定)。個人山行イブネ南尾根偵察行における蜂の事故の説明と同時に、支部長への事故報告を徹底するよう依頼。事故処理費用は遭難対策初動基金からだすことで承認。

⑨支部報編集委員会(星):正月号に予定している掲載内容につき説明。委員会の紹介冊子作成を予定しているので、各委員会は配布されたフォームにて紹介記事を12月までに提出するよう依頼。

⑩青年部(藤寄):11月の終わりに剣岳の早月尾根で雪上訓練を行いたい旨報告。

⑪東海学生連盟(澤井):配布された10月定例会議事録に基づき夏山合宿の報告。11月17日に総会を開催する旨報告。

⑫登山教室委員会(石田):配布された資料に基づき中日・朝日の登山教室の山行報告と同時に、朝日は9月の山行をもって終了した旨報告。中日は10月3名加入するも来年3月以降の継続については未定。

⑬登山学校(天野欠席のため、石田):山行状況並びに計画及び今後検討を要する問題点の説明有。指導員によってはカリキュラム以外に、個別に受講生の体力チェックの為、トレーニング山行を別途組んで実施しているが、登山届提出が徹底されていないので今後は徹底することとした。

⑭自然保護委員会(井藤):議事録に基づき、山行、モニタリング1000里地調査申請状況、森の勉強会並びに忘年会につき説明。

⑮海外登山(星):インドヒマラヤ登山につき岐阜で説明会実施。計画の詳細は年内に決める予

定。

⑩写真展委員会(井上欠席のため葛谷):応募勧誘、応募状況説明。写真展での皇太子殿下の作品の展示の可否につき模索中である旨報告。

⑪技術向上委員会(片岡):(1)1月6日に気象講習を行う。(2)遭難対策を含めて技術向上委員会でファーストエイド・セーフレスキュー・救急救命を2回に分けて講習会を予定している。詳しくは10月26日の技術向上委員会で決めていく。(3)10月27日本部遭難対策委員長川瀬さん東海支部訪問予定。本部と東海支部における遭難対策の情報・意見交換の予定、などの報告。

⑫森の音楽祭委員会(箕浦):これまで3回森の音楽祭会場の整備作業をしてきたが今回の台風で道路が崩壊した箇所あり。再度崩壊道路を改修作業を10月27日に実施するので都合のつく方は参加してほしい旨依頼。毛利から音楽祭参加申し込み状況を、一般参加は355人、観覧会は105人、ハイキングの応募は155人で定員60人に対して2.5倍の為に抽選になった旨報告。

⑬ボランティア委員会(毛利):前田委員長欠席のため、事前に提出された報告を代読。

試験観察中の少年少女のサポート登山については尾上委員より補足説明有。-この取組は名古屋高裁レベルカリキュラム以外、まで範囲に広がりそうであるとの由。

出席:高橋、山田、片岡、尾上、加藤、和田、星、井藤、石田(文)、小川、箕浦、藤寄、毛利、金谷、鎌倉、澤井、佐野、鈴木、市川、石田(伸)、葛谷

総務委員会 毛利邦男 記

ル ー ム 日 誌

―― 8 月 ―――

- 1 (火) 県岳連
- 2 (水) 青年部
- 3 (木) 写真展委員会
- 4 (金) 古道塩の道
- 8 (火) 支部友委員会ミーティング
- 10(木) 自然保護委員会
- 14(月) 登山教室委員会
- 15(火) ボランティア委員会
- 16(水) 山行委員会/正副支部長会議
- 17(木) 東海学生連盟
- 21(月) 図書委員会、読図会
- 22(火) 猿投の森運営委員会
- 23(水) 常務委員会

―― 9 月 ―――

- 1 (金) 古道塩の道
- 4 (月) 支部友委員会
- 5 (火) 県岳連
- 6 (水) 青年部/TNCC(同好会)
- 7 (木) 写真展委員会
- 11(月) 登山教室・登山学校委員会
- 14(木) 自然保護委員会
- 19(火) ボランティア委員会
- 20(水) 山行委員会/総務委員会・正副支部長会議
- 21(木) 東海学生連盟
- 22(金) 図書委員会、読図会
- 26(火) 猿投の森運営委員会
- 27(水) 常務委員会
- 28(木) 技術向上委員会
- 29(金) 技術研修会

―― 1 0 月 ―――

- 2 (月) 支部友委員会
- 3 (火) 県岳連
- 4 (水) 青年部 TNCC(同好会)
- 5 (木) 写真展委員会
- 6 (金) 古道塩の道/森の音楽祭
- 10(火) 登山教室・登山学校委員会
- 12(木) 自然保護委員会
- 16(月) 図書委員会、読図会
- 17(火) ボランティア委員会
- 18(水) 山行委員会/総務委員会・正副支部長会議
- 19(木) 東海学生連盟
- 20(金) 森の音楽祭実行委員会
- 24(火) 猿投の森運営委員会
- 25(水) 常務委員会
- 26(木) 技術向上委員会
- 27(金) 亀の会/東海学生山岳連盟

―― 1 1 月 ―――

- 1 (水) 青年部 TNCC(同好会)
- 2 (木) 写真展委員会
- 6 (月) 支部友委員会
- 7 (火) 県岳連
- 9 (木) 自然保護委員会
- 10(金) 古道塩の道
- 13(月) 登山教室委員会
- 15(水) 広島支部との意見交換会/山行委員会
- 17(金) 東海学生山岳連盟
- 20(月) 図書委員会、読図会
- 21(火) ボランティア委員会

22(水) 常務委員会
24(金) 技術向上委員会／登山学校
27(月) 森の音楽祭実行委員会
28(火) 猿投の森運営委員会

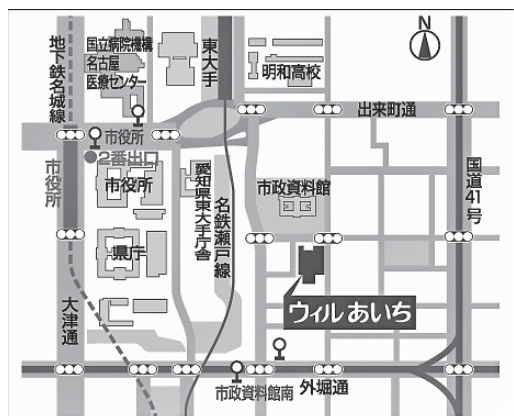
会員異動

入会： 奥村明徳(16271)
退会： 林 悦子(15254) 山中保一(8769)

INFORMATION

【総務委員会からのお知らせ】

△東海支部新年懇親会のご案内△
日 時 平成30年1月20日(土) 受付15時30分～
講演及び新年懇親会16時～19時15分 (予定)
場 所
挨拶と講演：
ウイルあいち(愛知県女性総合センター)
1F セミナーズルーム1, 2
〒461-0016 名古屋市東区上笠杉町1番地
TEL：052-962-2511
懇親会：
ウイルあいち 地下1階 CLOVER CAFÉ
TEL：052-962-9608



- 地下鉄「市役所」駅 2番出口より東へ徒歩約10分
- 名鉄瀬戸線「東大手」駅 南へ徒歩約8分
- 基幹バス「市役所」下車 東へ徒歩約10分
- 市バス幹名駅1「市政資料館南」下車 北へ徒歩約5分

内 容

第1部 挨拶と講演 (16時～17時)

・支部長挨拶
・講演 日本山岳スポーツライミング協会会長の八木原氏による「8000m峰の勇者たち」と題した講演を予定しております。是非ご参加ください。

第2部 懇親会 17時15分～19時15分

・懇親会費 5000円 (予定)

総務委員長 毛利 邦男

【写真展実行委員会からのお知らせ】

新年を迎え 新春のお慶びを申し上げます。

== 第16回東海岳人写真展開催 ==

2018年3月20日(火)～25日(日)の日程で、「第16回東海岳人写真展」を名古屋市栄の「市民ギャラリー栄」で開催します。支部員、支部友会員の作品80点以上を展示する予定です。作品を出展していない方も是非ご来場ください。山の写真を鑑賞しながら支部の仲間と交流しましょう。

== 第16回東海岳人写真展作品募集 ==

上記『第16回東海岳人写真展』に展示する作品を募集しています。詳細は支部報10月号に同封の『応募のご案内』をご覧ください。東海支部のホームページに掲載されています。

<http://jactokai.sakura.ne.jp/shibuhp/modules/news/article.php?storyid=95>



締切は1月15日です。
お急ぎください。

===== 撮影山行 =====

下記のような写真撮影山行を企画しています。是非、参加をご検討ください。

写真撮影山行では、登攀・歩行を少なくし、写真を撮影できる自由時間を多くした、山の景色や花などの撮影対象が多い場所への山行を計画しています。カメラはコンパクトデジカメ三脚無しでもOKです。

① 雪の駒ヶ岳千畳敷 (中央アルプス)

- ・月日：2月中旬を予定 (1泊2日)
- ・交通手段：公共交通機関か自家用車 (参加人数による)

- ・宿泊：千畳敷ホテル
- ・撮影対象：雪の千畳敷、宝剣岳など
- ・申込締切：1月末
- ・千畳敷まではロープウェイ利用

② その他の雪の山など

- ・上記以外に雪の山(白馬など)への撮影山行を企画した場合には、「東海支部だより」でお知らせします。

- ・撮影山行したい場所などの希望があれば写真展実行委員までお知らせください。

- * 東海支部のHPに詳細が掲載してあります。メニューで「写真展実行委員会」をクリックしてください。
- * 月日や行程、移動方法は参加希望者との相談で変更する可能性があります。
- * 参加希望、問い合わせは、次のメールアドレス shasin@jactokai.net または、写真展実行委員までお願いします。写真展実行委員会 井上 寛之

【技術向上委員会からのお知らせ】

技術向上委員会では、平成30年3月までの3ヶ月間に3件の講習会を企画します。山をより楽しく登るために、様々な知識を身に付け、自身の技術向上を計り事故のない安全登山に役立てていきましょう。各項内容をご確認の上ふるってご参加ください。

①山の気象講座（基本編、気象遭難をなくすために）

山を歩いていて突然の雨と強風、それに伴う増水、落雷など天候の急変や読み間違いで怖い思い、必死な思いをして山小屋等に逃げ込んだ経験は有りませんか？毎年、『気象遭難』と言われる山岳事故が後を絶ちません。この講座で天候の移り変わりの予備知識を得、山行前に活用してください。

日 時：1月6日(土) 13時～15時
(12:45分開場)

場 所：OMCビル 4F 講堂
講 師：NPO法人 ウェザーフロンティア 東海(WFT) 山岳部
気象予報士 小田切 正氏

申込・費用：不要 無料 直接会場にお越しください。筆記用具持参の事。

②山の病気とケガの講演（基本編、山で役立つ医療知識の習得）

登山中に予期せぬ事故や病気に遭遇する事があります。そんな時に備えて医療知識や対処方法の勉強をしましょう。

日 時：2月24日(土) 16時～18時
(15:45分開場)

場 所：OMCビル 4F 講堂
講 師：日本山岳会 医療委員会 委員長
野口いづみ氏

「山の病気とケガ」「山の救急医療ハンドブック」「登山の医学ハンドブック」「山登りトラブル回避&対処マニュアル」「安全登山の基礎知識」(共署)など多くの著作本を有されています。申込・費用；不要 無料 直接会場にお越しください。筆記用具持参の事。

③ファーストエイドの講習会（中級編、心肺蘇生の実技を含む）

低体温症は雪の降る冬季登山だけに起こるものではありません。夏でも人間の体温が下がればいつでもどこでも発症し、重篤な病状に陥ることがあります。低体温症救命救助の講習と人体模型を使用した心臓マッサージや AED 操作の実技講習をおこないます。

日 時：3月3日(土) 9時～12時
(8:45分開場)

場 所：名古屋市立大学病院シュミレーションセンター1F多目的室
地下鉄桜山線桜山駅下車3番出口
講 師：日本登山医学会 認定国際山岳医
三浦 裕氏

申込・費用：必要 委員会に属する委員は各委員長へ申し込み。その他の方々は技術向上委員会今津(imazu.eiitirou@maroon.plala.or.jp)まで。メ切2月中旬(定員30名になり次第受付終了)
参加費：500円 動きやすい服装、筆記具持参の事。

技術向上委員長 片岡 泰彦

編集後記

あけましておめでとうございます。昨年を振り返ると、なんとといっても8月の登山学校開校が支部に大きな変化をもたらした。入学した90名以上の生徒を、同時に支部友会の会員として迎えたことは、今後の支部の運営にも大きな変化をもたらすだろう。

会合なども増えて、支部ルームは時には3つの委員会が机と椅子を譲り合って開催する時にも出てきた。別の変化も生まれてきた。それは登山学校の講師陣で、今まで交流の場が少なかったベテラン層と青年部の若手がかみ合った布陣で運営し始めている。ここには年代のギャップを感じることも少ない。結構なことと思う。

数は力なりである。次世代に引き継ぐ支部の姿が、今年は描けると期待している。

星 一男

